

日時：平成24年12月11日（火）18：30～20：30

場所：八幡コミュニティセンター アリーナ

【 当 日 の 内 容 】

18：30

- ◆ 開会

18：30～18：35

- ◆ 本日の進め方（事務局／株ドーコン）
 - ・グループ別意見交換の進め方

18：35～18：55

- ◆ 地区防災計画（案）について（事務局／株ドーコン）
 - ・地区防災計画（案）および防災ガイドの説明

18：45～20：00

- ◆ グループ別意見交換
 - ・計画案および防災ガイドについて意見交換
 - ・今後の実践について意見交換

20：05～20：30

- ◆ グループ別意見の発表
 - ・各グループ代表者から発表

20：30

- ◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

A・Bグループ（7名）

- ・防災ガイドの大きさは家の壁に貼るには大きすぎるので、電話帳の1～2ページに印刷してはどうか。または、内容は充実していると思うので、市の広報の1～2ページを使いながら数カ月発行し、周知すると良いのではないか。
- ・小学生でも興味を持つように、イラスト等を用いてわかりやすくしてほしい。親が子供から防災について学ぶことを促すと良いのではないか。
- ・防災訓練については、どのような災害を想定して訓練を行うのか明確にした上で、生振地域全体で避難所訓練をすると良いのではないか。
- ・普及啓発については、小学校の授業を通して子供たちへ防災教育すると良いと思う。



Cグループ（5名）

- ・自分たちの町内会で説明できるように『防災の心得』は分かりやすい内容にまとめてほしい。
- ・防災マップは航空写真ではない方が良いと思う。また、避難に関係ある部分に絞った範囲だけで良いのではないか。
- ・防災ガイドは「貼る」形式ではなく、カレンダーのように「めくる」形式の方が活用しやすいのではないか。
- ・避難訓練は、避難をいつ開始すれば良いか確かめる避難開始時の訓練、そして通常の避難訓練や避難所訓練が必要。そして、この地区では要援護者の支援訓練が大切である。現実的な課題として自動車避難もシミュレーションしなくてはならないと思う。



Dグループ（6名）

- ・防災ガイドはパッと見てわかりやすくしてほしい。また、家族で防災の話ができるように避難方向を示す矢印はなくても良いのではないか。また避難所までの距離を表示し、標高もわかりやすくすると良い。
- ・基本的な災害知識など、普段から読んで勉強しておく事項は裏面に記載しても良いと思う。
- ・防災訓練は、町内会で実施しても参加者が少ない現状にある。防災計画を説明する専門の方が来てほしい。訓練の際は、非常食を実際に食べてみても良いと思う。
- ・普段から一人ずつライフジャケットも用意しておく方が良いのではないか。



Eグループ：（6名）

- ・右岸地区の収容避難所が八幡小学校に集約されることについて疑問が残る。既に各地域で実施している避難訓練は八幡コミセンを使用しており、そちらの方が住民も覚えやすい。また、避難所までのアクセスや周辺の駐車場の立地状況も考えると、やはり八幡コミセンを収容避難所とした方が良いと思う。
- ・防災マップは津波だけでなく、冬の対策や、この地域は特に水害の被害が多かった地域であるので、水害についても詳しく記載があるべき。
- ・地震、水害などの災害ごとに避難行動のフローチャートがあると良いのではないか。
- ・防災訓練は、既に町内会単位で訓練を実施しており、右岸地区全体としての訓練は中々難しいのではないかと。災害時要援護者の支援をどのように行えば良いか、様々なケースを想定して訓練をする必要がある。



Fグループ：（4名）

- ・防災ガイドの内容は良いと思う。各家庭で貼るには、このままのサイズだと大きすぎるが、会館等の公共の場で貼るものとしては大きくて良いと思う。
- ・『我が家の防災メモ』は良いと思う。各家庭で、救助する側が目につく場所に掲示してもらいたいと思う。
- ・防災マップは、航空写真はわかりやすいと思うが、全体の写真ではなく、地区ごとのマップがあると良いのではないかと。高齢者にとっても見やすくなるように、メリハリのあるマップにすると良いと思う。
- ・防災訓練については、高齢者への対応が一番大切であり、自力で避難ができない方への避難支援が課題である。
- ・各地区の自主防災組織は日頃から役割分担などのイメージトレーニングやシミュレーションが必要。
- ・日頃から共助の考えのもと、心肺蘇生法やAEDについても熟知することも大切だと思う。安否確認や消火活動など、できる範囲で実際に取り組むことが必要。

